

関係機関・団体長
病害虫防除員
農薬管理指導士 } 様

山口県病害虫防除所長

イチゴのハダニ類およびうどんこ病の発生状況と防除対策(技術資料第11号)について

10月下旬の巡回調査の結果、イチゴのハダニ類は平年に比べ多く、うどんこ病はやや多い状況でした。つきましては下記を参考に防除指導の徹底をお願いします。

記

ハダニ類

1 発生状況

- (1) 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率30.0%（平年14.9%）、寄生株率8.5%（平年3.5%）で平年に比べ多かった。
- (2) 調査で確認されたハダニ類はナミハダニが主であった（図1参照）。



図1 イチゴに寄生するハダニ類
左：ナミハダニ

右：カンザワハダニ

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生程度 多

3 防除対策

- (1) ハダニの発見が肉眼で困難な場合は、拡大鏡などで確認するか、葉裏に白紙を擦り付けてハダニが潰れた薄緑色や赤色の痕跡を確認する。ナミハダニは体色が薄緑色で、体色が赤いカンザワハダニに比べ発生が確認しにくいので、より注意が必要である。
- (2) 下葉の葉かきを行って密度を下げ、その後に薬剤散布を行うと効果が高い。
- (3) 発生が局所的である場合は部分散布を行う。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 開花期以降に薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。また、ミツバチの巣箱は、薬剤の影響が無くなってから施設内に戻す（表1参照）。
- (2) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける（表1参照）。
- (3) 薬剤は葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 生物農薬（カブリダニ類・表2参照）は、次のことに注意して使用する。

- ア 発生初期に放飼する（ミヤコカブリダニはハダニの発生前の放飼可能）。
- イ ハダニが発生している場所の近くを中心に放飼する。
- ウ 天敵に影響の少ない農薬を使用する（表1参照）。

表1 イチゴのハダニ類登録薬剤のミツバチ・天敵への影響

系 統	薬 剤 名	ミツバチの安全日数	天敵（カブリダニ類）への影響	収穫前日数	本剤の使用回数	備考
気門封鎖剤	アカリタッチ乳剤	影響なし	チリカブリダニには影響なし	収穫前日まで	6回	
	粘着くん液剤	影響なし	影響あり	収穫前日まで	-	
	サンクリスタル乳剤	影響なし	-	収穫前日まで	-	うどんこ病にも適用
ピレスロイド*	アーデント水和剤	2~3日	使用不可	収穫前日まで	4回	
	マブリックジェット	3~7日	使用不可	収穫前日まで	2回	くん煙剤
	ロディーくん煙顆粒	7~10日	使用不可	収穫前日まで	3回	くん煙剤
殺ダニ剤	オサダンフロアブル	処理翌日	影響なし	収穫前日まで	3回	
	カネマイトフロアブル	影響なし	影響なし	収穫前日まで	1回	
	コロマイト	影響なし	影響あり	収穫前日まで	2回	
	ダニサラバフロアブル	影響なし	影響なし	収穫前日まで	2回	
	テデオン乳剤 / 水和剤	影響なし	影響なし	収穫3日前まで	2回	
	ニッソラン水和剤	影響なし	影響なし	収穫前日まで	2回	
	マイトコーネフロアブル	影響なし	影響なし	収穫前日まで	2回	
	マイトクリーン	処理翌日	-	収穫前日まで	1回	
	サンマイトフロアブル	3~7日	使用不可	収穫前日まで	1回	同系統
	ダニトロンフロアブル	影響なし	-	収穫前日まで	1回	
	ピラニカEW	処理翌日	使用不可	収穫前日まで	1回	同一成分含む
パロックフロアブル	影響なし	影響なし	収穫前日まで	1回		
ダニメツフロアブル	影響なし	影響なし	収穫前日まで	1回		
その他	アフーム乳剤	2~3日	使用不可	収穫前日まで	2回	
銅剤	サンヨール	影響なし	影響なし	収穫前日まで	6回	うどんこ病にも適用

- : データなし

ミツバチに対する影響について

1. 本表は、各県の資料及びメーカー資料を参考に安全日数を掲載した。
2. 影響がない剤であっても、薬液が乾かなかつたり、臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合がある。
3. 低温、曇雨天が続く場合は薬剤の分解が進まず遅くまで影響が残るため安全日数は長くなる。
4. 巣箱を再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認のうえ、巣門を開ける。

天敵(カブリダニ類)への影響について

日本バイオリジカルコントロール協議会会員各社、農薬の開発メーカー、日本の公立試験研究機関及びIOBCの現時点での資料を元に作成されている(日本バイオリジカルコントロール協議会資料を参照した)。

表2 野菜のハダニ類に登録のある生物農薬

一般名	商品名	使用量
チリカブリダニ剤 2000頭/瓶	カブリダニPP	3瓶(6000頭/10a)
ミヤコカブリダニ剤 40頭/10ミリリットル	スパイカル	500ミリリットル/10a(約2000頭)
チリカブリダニ剤 2000頭/100ミリリットル	スパイデックス	100~300ミリリットル/10a(チリカブリダニ約2000~6000頭)
チリカブリダニ剤 1000頭/250ミリリットル	チリトップ	6000頭/10a

イチゴうどんこ病

1 発生状況

10月27日～29日の巡回調査では、発生ほ場率20.0%（平年12.6%）、発病葉率10.5%（平年2.5%）で平年に比べ発生がやや多く、また、発生程度の高いほ場が多かった(図2参照)。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域
- (2) 発生程度 やや多

3 防除対策

- (1) ほ場を観察し、うどんこ病の発生が見られるほ場では、発病葉および発病果を除去してほ場外で処分し、薬剤を散布する。
- (2) 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、4日～5日おきに1回～2回薬剤を散布する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤が果実や葉裏にもかかるよう、十分な液量を丁寧に散布する。
- (2) 薬剤耐性菌の発達を避けるため、同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。
- (3) 適正な散布作業の実施や農薬使用基準の遵守など、安全で効果的な防除に努める。

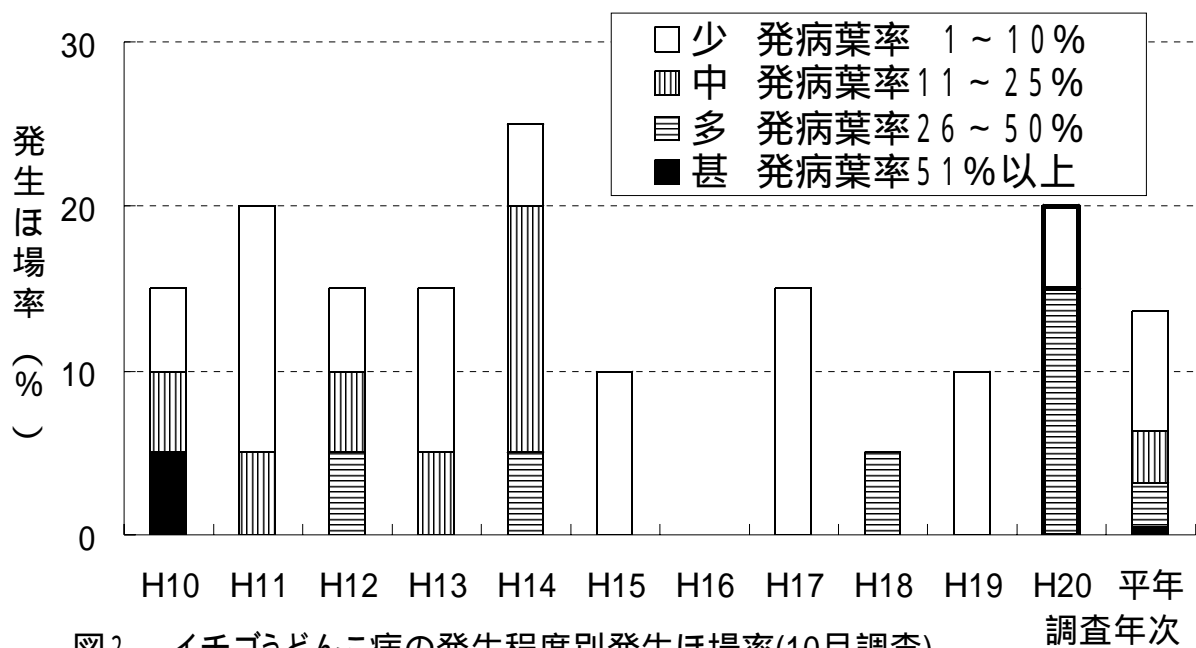


図2 イチゴうどんこ病の発生程度別発生ほ場率(10月調査)